

劣化ウラン兵器問題に関する国会議員アンケート

氏名：

質問1：劣化ウラン兵器の禁止に向けた取り組みについて――

- 1) 日本は、「予防原則」の観点から、他の有志国とも連携して、リーダーシップを取るべき。
- 2) 「国際的な議論の行方を見守る」という、現在の日本政府の見解が妥当と考える。
- 3) その他。

質問2：劣化ウラン弾が使用され、がん、白血病、先天性異常などの増加が報告されているイラクや、旧ユーゴなどの被害者への支援について――

- 1) たとえ因果関係がはっきりしなくても、日本は支援をすべき。
- 2) 被害の実態を明らかにするため調査に協力すべき。
- 3) その他。

[注記：今年10月5日、WHOの報道官が公表したところによれば、WHOとイラク関連当局は、現在、イラクにおける先天性障害に関する調査を実施中です。（AFP:「イラク市民やイラクで任務についた兵士たちの間にみられる健康異常についての報道をうけ、度重なる戦争において用いられたと推定される、装甲貫通用の劣化ウラン弾を含む特殊兵器が原因となっているのではないかとの見方が出ている」）]

質問3：イラク戦争“終結”後の自衛隊のイラク派遣は、劣化ウラン被曝の危険性を否定して行われたが――

- 1) 大きな問題があった。
- 2) 問題なかったと考える。
- 3) その他。

質問4：在日米軍基地における劣化ウラン兵器貯蔵について――

- 1) すみやかに情報開示および撤去を求めるべき。
- 2) 特に問題なし。
- 3) その他。

[注記：嘉手納基地には、2004年当時、約40万発の劣化ウラン弾が保管されていたことが、米情報公開法に基づいて米空軍が公開した資料から明らかとなっています――参照：『ウラン兵器なき世界をめざして―ICBUWの挑戦』（合同出版、2008）137頁]

質問5：その他、劣化ウラン兵器問題や非人道的兵器の軍縮・禁止問題に関するお考え・メッセージを自由にお書きください。